

# 第1章 総論

## 1. はじめに

- ・あなたは、昨日、何を食べましたか？
- ・だれが作り、どこで獲れ、どこから運ばれ、どう売られ、どう調理されたものですか？
- ・それは、いくらでしたか？支払った費用はだれに、どこに使われましたか？
- ・だれと食べましたか？たのしい食事でしたか？豊かで良い食事でしたか？
- ・あなたは、明日、何を食べますか？

私たちは、「食べること」は、「生きること」そのものだと考えています。何をどのように選んで、噛み砕き、味わい、飲み下すのか、考えて食べたことがありますか。成長の中で身につけ、意識せずできていること、豊富に供給されている食材、ともに食卓を囲む人。食べ方の姿勢は、生き方の姿勢を現したものになっているのではないのでしょうか。豊かな大地と海の恵みを受けた千葉県、そこで育まれた食品、人、文化。これらをいかした「ちば型食生活」(ちばらしい食卓、すばらしい食卓)により、稔りある生を満喫して欲しいと思います。

元気な「ちば」を創る「ちばの豊かな食卓づくり」計画の策定にあたっては、「ちば方式」の考え方に従い、白紙の状態から県民自らが意見を出し合い、まとめあげていく手法をとりました。1. タウンミーティング、グループ意見交換会による意見の収集、2. 各分野を代表する有識者や実践者などからなる「千葉県食育推進県民協議会(以下、協議会)」とその下部組織として「千葉県食育推進計画策定支援作業部会(以下、作業部会)」を設置しての具体的な計画内容の検討、3. 県庁内横断的な組織である「ちば『食へのこだわり』県民づくりプロジェクト推進連絡会議(以下、庁内会議)」による協議会での検討結果を踏まえた施策の取りまとめを並行して進めるものです。平成18年度中に、タウンミーティングは10回、計2,259人が参加して行われ、グループ意見交換会は16回、数人から百余人の規模で実施されました。協議会は30人の委員で、平成18から20年度に計3回実施されました。作業部会は7人の委員で、計10回実施されました。庁内会議は7部27課にわたり、協議会、作業部会の前後で会議を行う他、共同で勉強会を実施しました。

この過程でわかったことは、千葉県地域福祉支援計画でキーワードとした「福祉力(ちから)」を蓄えた多くの県民が、千葉県次世代育成支援行動計画でキーワードとした「地域力(ちから)」を持ってつながり、それぞれに根を張った食育活動をすでに行っていることでした。あらためて県が果たすべき役割は何なのかを問い直したとき、これらの種を、風になり、虫になり、鳥

になって、運ぶことが、最も重要な役割なのではないか、と考えました。この種をもとに、600万県民のそれぞれが、食べる力、生きる力を育てたいと願っています。

元気の「ちば」を創る「ちばの豊かな食卓づくり」計画は、「私たち」である県民がすでに行動をしている食育活動に、県独自の視点として「食べ物の物性と咀嚼嚥下(しっかり噛んで味わうこと)・成長発達」という種を加えて、「あなた」が選択・行動するための計画です。県は、県民の「選択」を把握し、次の「行動」そして「供給」につなげる施策を実施します。あなたの庭にあなたが選んだ種を蒔き、あなたの花を咲かせあなたの実を稔らせてください。

この計画では、「あなた」の視点で県の施策を整理しました。「種」を「つなぐ」ための4つの視点です。

#### 《ちばの食育推進の4つの視点》

1. 親から子へつなぐ<sup>いのち</sup>生命
2. 人から人へつなぐ文化
3. 作り手から買い手へつなぐ食べ物
4. わたし、あなた、みんなへつなぐ輪

豊かな大地と海の恵みを受けた千葉県、そこで育まれた食材、人、文化。これらをいかした「ちば型食生活」を、私たちが繰り返していくこと。選択が供給を生み、供給が選択をもたらすサイクルが、協働により、より大きく、より素早く、より豊かに回っていく中で、「ちばらしい食卓」は「すばらしい食卓」になると信じています。